

20

25

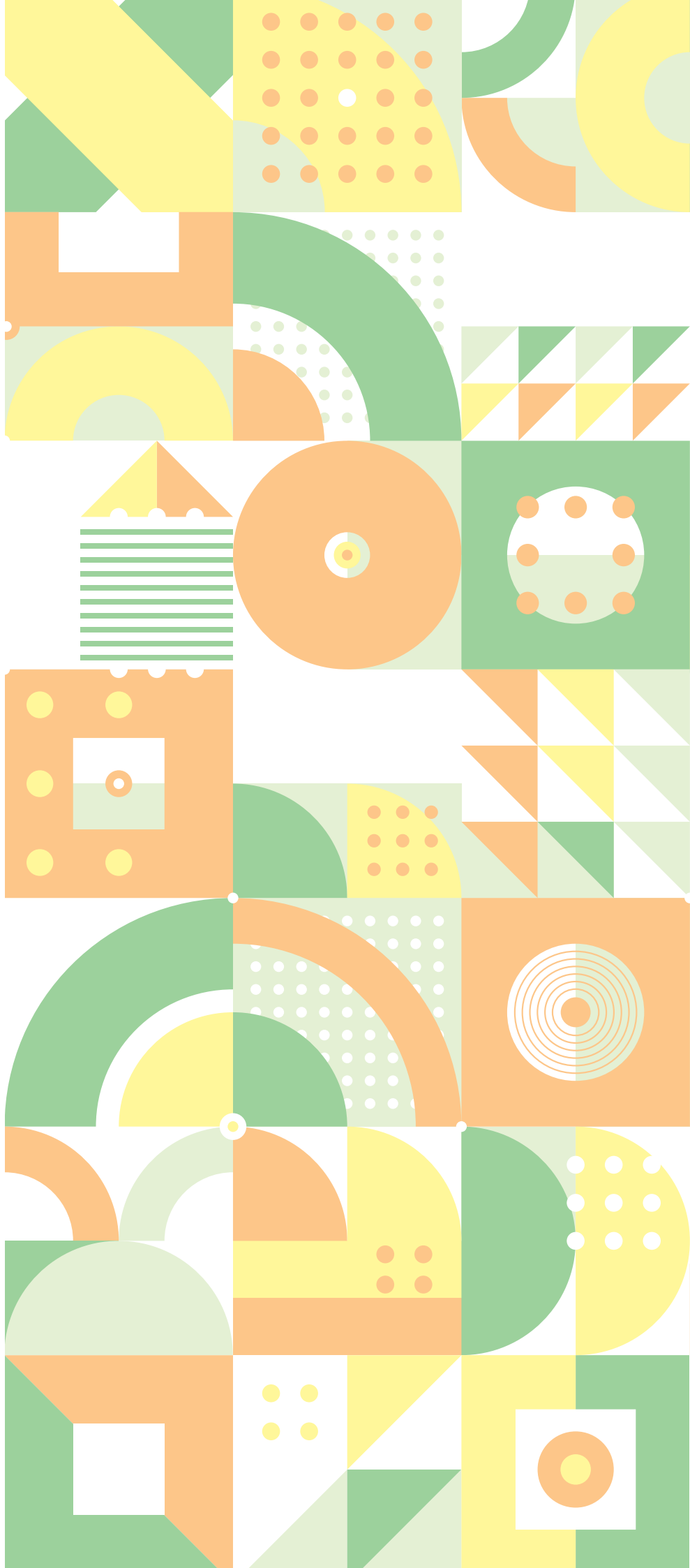
# INTERNSHIP REPORT

インターンシップ等  
就業体験実施報告書



岩手大学  
理工学部

FACULTY OF SCIENCE  
AND ENGINEERING,  
IWATE UNIVERSITY



## 岩手大学理工学部 「社会体験学習」 実施概要

インターンシップとは、「学生が、その仕事に就く能力が自らに備わっているかどうか（自らがその仕事で通用するかどうか）を見極めることを目的に、自らの専攻を含む関心分野や将来のキャリアに関連した就業体験（企業の実務を経験すること）を行う活動」（文部科学省、厚生労働省、経済産業省定義）で、岩手大学理工学部では下記概要により単位認定を実施しています。

### 1.目的

岩手大学理工学部「社会体験学習」事業は、学生に職場体験させることにより、主体的で創造的な人材の育成を図ることおよび事業所、地域との連携を図りながら、広く社会に貢献することを目的としています。

### 2.対象学年

この科目の主な対象学年は3年次です。

### 3.実習期間及び実習内容

実習期間は原則として夏期休業期間中の5日間以上（40時間）です。5日間（40時間）の実習で1単位、10日間以上（80時間）の実習で2単位が取得できます。

実習内容は基本的に各事業所等が作成したカリキュラムによります。

# 20

# 25

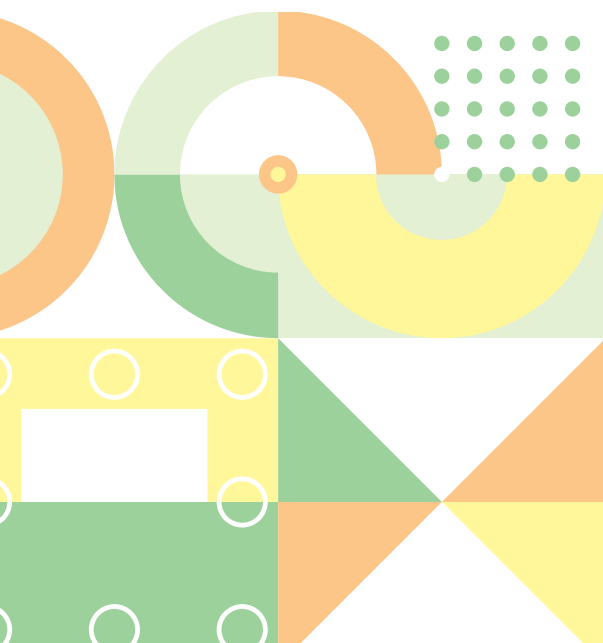
## INTERNSHIP REPORT

インターンシップ等  
就業体験実施報告書



### >> CONTENTS

化学・生命理工学科	化学コース	2
システム創成工学科	電気電子通信コース	3
システム創成工学科	知能・メディア情報コース	4
システム創成工学科	知能・メディア情報コース	5
システム創成工学科	機械科学コース	6
システム創成工学科	社会基盤・環境コース	7
システム創成工学科	社会基盤・環境コース	8
後輩へのメッセージ		9
令和7年度インターンシップ受け入れ事業所実績一覧		10
単位認定の流れ		11



● INTERNSHIP REPORT



Pick Up

GMPによる安全性と有効性、  
高品質の維持と密接な連携

ほんま  
本間  
ゆうと  
祐翔

【期間】

令和7年8月25日(月)～  
8月29日(金) (5日間)

【実習先】

シオノギファーマ株式会社  
金ケ崎工場

インターンシップ等就業体験実習報告

私は2025年8月25日から8月29日までの5日間、シオノギファーマ株式会社金ケ崎工場にてインターンシップ実習をさせていただきました。

大学で学んでいる化学の知識が、実際の現場で製品を作る際にどのように活用されているのかを理解し、ものづくりへの視野を広げること、今後のキャリア選択に役立てたいと考え、今回のインターンシップに応募しました。

初日は、金ケ崎工場の概要説明とGMP教育を受けました。GMPとは、医薬品製造における製造管

理と品質管理の基準のことであり、医薬品の安全性と有効性と品質を保証するために、国際的な展開を含め厳格な規制や法整備がなされていることを学びました。特に、医薬品は見た目やにおいだけでは安全性や有効性を判断できないため、常に品質を保証する必要があるという、人の命に関わる製品ならではの考え方に強く共感しました。また、すべての作業を文書化し、誰が製造しても高品質を保てるようにすることや、「データインテグリティ」や「ALCOA原則」といった、データ管理において守るべき重要な考え方についても学びました。

その後の5日間では、以下の各部門にて就業体験をさせていただきました。

工場技術部は、生産現場で発生する不具合の技術的な解決や、工場全体の技術支援を行う部署です。ラボスケールでの反応検討や、開発原薬の製品化、初期生産の構築など、幅広い業務を担っていることを学びました。体験では、粒子の粒度分布を調べて物質を特定する作業や、プラセボ原料を用いた打錠体験を行いました。これらを通じて、得られたデータや数値に基づいた考察や理由づけの重要性を学びました。

製造第二部門では、抗生剤の原薬や中間体を製造する工場を見学しました。製造はコンピューターに

よるプログラムで管理されており、大型の反応器が防爆パネルで制御されているなど、ラボとの違いを多く発見することができました。

製造第三部門では、注射用抗生剤の製剤から包装までの製造ラインを見学しました。無菌製剤を製造するために、滅菌方法の工夫や部屋の圧力差による汚染防止、製造ラインや部品の滅菌など、徹底した環境整備が印象的でした。医薬品の高品質を維持するための設備管理・環境管理の重要性を実感しました。

製造第四部門では、経口用抗生剤の製剤から包装までの工程を見学しました。体験では、錠剤にする前の粒子径が規格内かを確認する試験や、溶出試験による品質管理について学びました。

最後に、品質管理部門では、大学で学んでいる分析機器の紹介を受け、医薬品の溶出試験などを化学的な視点から体験させていただきました。医薬品の分析には多くの試験規格が定められており、品質を守るために多角的な視点とデータに基づいた管理が行われていることを学びました。

この5日間のインターンシップを通じて、医薬品製造にはGMPにより多くの規則や法律が関わっており、それによって安全性と有効性及び高品質が保たれていることを深く理解することができました。製造の各工程は密接に連携しており、どれか一つが欠けても製品は完成しません。各部門間のコミュニケーションの重要性を実感するとともに、大学で学んだ知識を土台に、入社後も継続して学び続けることで、より良い技術者になれると感じました。

最後に、お忙しい中インターンシップの機会をいただき、丁寧にご対応くださったシオノギファーマ株式会社金ケ崎工場の皆様に心より感謝申し上げます。

● INTERNSHIP REPORT

Pick Up

各部門の役割と連携  
電力会社の責任と対応力

かわと  
川戸  
りゅうせい  
隆聖

【期間】

令和7年8月25日(月)～  
8月29日(金)〈5日間〉

【実習先】

東北電力株式会社

インターンシップ等就業体験実習報告

私は、2025年8月25日から29日までの5日間、東北電力株式会社のインターンシップ(NWコース)に参加しました。大学で電気エネルギーや電力系統に関する授業を受ける中で、社会における電力の安定供給や再生可能エネルギー導入の重要性に関心をもちました。そこで、実際の電力会社ではどのような業務が行われているのかを知りたいと考え、今回のインターンシップに応募しました。

初日は、福島県にある研修センターへバスで移動し、東北電力の企業概要や事業全体について説明を受けました。東北電力が東北6県と新潟県を中心に電力を供給していること、そして発電と販売を東北電力が、送電・変電・配電を東北電力ネットワークが担っている体制を知り、エネルギーを支える企業としての社会的使命の大きさを実感しました。また、東日本大震災の被害状況を示した部屋では、災害の規模やその後の迅速な電力復旧の様子が記録されており、電力会社の責任と対応力の高さに感銘を受けました。

2日目は業務体験として、午前は変電業務、午後には送電業務の体験を行いました。変電業務では、施設内にある模擬変電所を使って、電圧を変換し需要に応じた電力を供給する仕組みを学びました。送電

業務では、広範囲に電力を安定的に届けるための鉄塔の構造や、最新技術を活用した設計・保守点検の方法について学ぶことができました。

3日目は、午前は給電業務、午後には配電業務の体験を行いました。給電体験では、系統盤の監視業務を通じて、電力の需要と供給を常に一致させるための系統制御の重要性を理解しました。

配電体験では、電柱から家庭までの配電線の配置を考え、実際に電線を取り付ける作業の一部を体験しました。電柱が生活の邪魔にならないように、また断線が起きにくいように工夫されていることを実感しました。

4日目は、午前は情報通信分野の業務について学びました。発電所や変電所をつなぐ通信ネットワークは電力供給に不可欠であり、外部からのサイバー攻撃に備えて社内独自のサーバーが使用されていることを知り、電力と情報技術が密接に結びついている点に驚きました。午後は社員の方々との懇談会があり、日々の



業務のやりがいや苦勞、就職活動へのアドバイスなどを直接伺うことができました。将来を考えるうえで非常に貴重な時間となりました。

5日目は、グループワークを通じて「東北電力ネットワークにおける改善点は何か」というテーマに取り組みました。私たちのグループでは鉄塔の停電対策に着眼し、意見を出し合いながら解決策をまとめ、最後に発表を行いました。多様な考え方を持つ仲間と協力して議論を進める中で、チームワークの大切さや、論理的に物事を説明する力の重要性を学ぶことができました。

この5日間のインターンシップを通して、電力会社における各部門の役割と、それらが連携して社会を支えていることを実感しました。現場での体験や社員の方々との交流を通じて、自分自身が電力業界でどのように関わっていきたいのかを考える良いきっかけとなりました。

今後は今回の学びを活かし、より専門的な知識を身につけながら、将来の進路を考えていきたいと思えます。

最後に、このような貴重な機会を提供していただき、丁寧にご指導いただいた東北電力株式会社の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

● INTERNSHIP REPORT

Pick Up

コミュニケーションにおける  
ヒアリング力と力量推測の重要性

近藤 未悠

【期間】  
令和7年8月25日(月)~8月29日(金)(5日間)  
令和7年9月8日(月)~9月12日(金)(5日間)  
【実習先】  
(株)SBS情報システム  
(株)東北システムズ・サポート

インターンシップ等就業体験実習報告

SBS情報システムでは、SE職のインターンシップに参加し、ヒアリングから要件定義、顧客への提案までの一連の流れを体験しました。中でも、次世代ソリューション事業本部で取り組んだ社内のお出退勤管理システム「ホワイトボード」の改善提案が特に印象に残っています。

私たちは、レベル別に分けられた課題の中から「外線番号を事業本部」に表示する」という中級レベルの課題を選択しました。当初は、事業名の横に番号を付与することで解決できると考え、顧客役を務める社員の方に提案を行いました。しかし、「変更が発生するたびにプログラムの根本部分まで戻って番号を修正するのは非効率的である」との指摘を受け、システム上で簡単に変更できる機能の必要性が明らかになりました。

この機能を実現するためには、単なる表示の変更ではなく、外線番号の情報をデータベースに格納し、それを画面上に表示するという大規模な改修が必要でした。新たなデータ型(スキーマ)を適切に宣言し、既存のデータ処理箇所を多数書き換える作業は予想以上に困難であり、特に必要な変数や処理がシステムの異なる箇所に点在していたため、全体像の把握に苦労しました。

このチーム開発を通じて、SE職に求められるコミュニケーション能力には、技術的な内容を正確に伝える力と、チーム内で円滑に協力する力という二つの側面があ

ることを痛感しました。

まずは、社内コミュニケーションの重要性です。自分が担当しない機能についてもシステムの全体像を把握し、自身の担当機能を他のメンバーに明確に伝える「相互理解のための情報共有力」が求められることを学びました。

もう一つは、対顧客コミュニケーションの重要性です。ITの知識を持たない顧客から、潜在的なニーズやシステム変更における懸念点(使い勝手の悪さなど)を正確に引き出す「本質的な要件を引き出すヒアリング力」が重要であると実感しました。

この収穫の多いインターンシップを通じて、技術力だけでなく、これら二つのコミュニケーション能力こそがSE職において最も重要なスキルであると学びました。

東北システムズ・サポートでは、SBS情報システムでの4人グループ開発とは異なり、主に2人ペアでの開発を経験しました。この規模の違いから、開発のテンポ感が大きく変わることを実感し、ウォーターフォール型とアジャイル型のような開発形態の選択は、会社の規模や事業内容による「最適なテンポ感」の違いが影響していることを観察することができました。

特に印象的だったのは、チーム開発に移る前に行ったVBAを用いた基礎演習です。ここでは、課題解決にかかる時間を自分で予測し、実際の所要時間との誤差を計測しました。これまでの学生生活では、決められた期限までに課題をこなすことが多かったため、この「自己

の力量を推測するフェーズ」が新鮮であり、仕事に対する理解が深まりました。

この経験を通じて、自身のスキルレベルに合った適切な解決方法を選択する意識を持つようになり、「力量の推測」はSEとして非常に重要であると改めて感じました。

また、自己理解とは、自分が得意な分野を探るための近道であり、専門性を高めるために欠かせない要素であると感じました。自分自身のスキルや特性を正しく把握することで、より適切な課題への取り組み方や、将来的なキャリアの方向性を見定めることができるようになります。

一方で、他者理解も同様に重要です。チーム開発においてはもちろん、将来的にプロジェクトマネージャーなどのジェネラリストとして働く場面では、他のメンバーのスキルレベルや得意分野を正確に把握し、それを社内で見出す力が求められます。こうした理解をもとに、適切なタスクの配分ができるかどうかは、プロジェクトの達成度だけでなく、最終的に顧客が満足するサービスを提供できるかどうかにも大きく関わってくることを実感しました。

相手の力量を理解し、適切にタスクを配分できるかどうかは、仕事の達成度だけでなく、最終的に「顧客が真に満足するサービスを提供できるか」という最も重要な点に関わってくることを確信しました。

また、技術的な面では、売買商品の売上実績から営業結果を分析する表を作成する課題に取り組みました。「この項目を採用すれば分析がしやすいか」というマネジメント寄りの視点を持ちながら作業することは非常に新鮮であり、面白さを感じました。現状の分析・解析は将来的に情報系職種やコンサルティング的な仕事に就く上で重要なスキルであると認識しており、今回の経験は今後のキャリアを考える上で大きな収穫となりました。

● INTERNSHIP REPORT



**インターンシップ等就業体験実習報告**

私は、アライドテレシスホールディングス株式会社（以下、アライドテレシス）と株式会社インターネットイニシアティブ（以下、EIJ）の2社でインターンシップを行いました。両社とも、ネットワークやインフラ、セキュリティに関わる企業であり、日頃利用しているインターネットアクセス環境がどのように構築され、支えられているのかを体系的に学びたいと考え、参加を決めました。COVID-19の流行をきっかけに、インターネットを活用したさまざまなサービスが急速に普及し、私自身もリモート授業を受けていた経験から、これらのインフラを支える技術に強い関心を持つようになりました。

テスト項目はグループディスカッションで考案し、社員の方々とアドバイスをいただきながら進めました。実際の評価テストでは、ネットワークの冗長構成に関する動作確認を主に担当し、リンクダウン時や機器切り替え時の通信継続性、経路の再収束時間などを計測しました。これにより、運用現場で求められる信頼性を体験的に学ぶことができました。特に、障害時の挙動を確認する過程で、プロトコル間の連携や設定のわずかな違いが結果に大きく影響すること理解し、ネットワーク設計における慎重さと検証プロセスの重要性を実感しました。

アライドテレシスは、業務用ネットワーク機器（L2/L3スイッチ、UTM、アクセスポイント、各種ソフトウェアなど）の企画・設計・製造・販売・保守を行う企業です。私は5日間の実習を通して、テストエンジニアとしての業務である製品評価テストを担当しました。

まず製品のコマンドリファレンスと構成図を確認しながら、実習のネットワーク環境の構築を行いました。機器の設定は殆どをコマンド環境で行い、リファレンスを見ながらの作業でした。最初は戸惑いながらも徐々に慣れ、最終的にはスムーズに作業を進めることができました。物理構成は比較的シンプルでしたが、論理構成は見た目以上に複雑で、機器の冗長化設定には苦労しました。

実習4日目には、クラウド技術を支えるデータセンターの見学を行いました。厳重なセキュリティ体制、安定的な電力供給を支える電気設備、革新的な冷却システムなど、普段は目にするのではないインフラの裏側を実際に見ることができ、大変貴重な経験となりました。特に印象的だったのは、万が一の障害時にもサービスを止めないための多重化設計や、電源・空調・通信といったすべての要素が緻密に連携している点です。一見すると単なる設備の集合に見えるものが、ユーザーに安定したサービスを届けるための重要な役割を担っており、「止まらないシステム」を支える技術と責任の重さを実感しました。

最後になりますが、お忙しい中インターンシップの受け入れとご指導をしてくださったアライドテレシスホールディングス株式会社、株式会社インターネットイニシアティブの社員の皆様にご心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

EIJでは、ネットワークに関する基礎的な講義と、AWS環境を用いたクラウド演習を行いました。ストレージなどのハードウェアに関する講義は、これまで詳しく学ぶ機会がなかった分野であり、新しい知識を多く得ることができました。私はこれまでオンプレミスでの開発や運用しか経験がなかったため、クラウド環境での構築は初めての体験でした。クラウド開発における設計思想やリソースの割り当てなど、クラウドならではの知識を身につけることができました。

Pick Up

慎重さと検証プロセスの重要性と止まらないシステムの責任の重さ

たむら 田村  
こうえい 昂瑛

【期間】

令和7年8月25日(月)～8月29日(金)(5日間)  
令和7年9月1日(月)～9月5日(金)(5日間)

【実習先】

アライドテレシスホールディングス(株)  
(株)インターネットイニシアティブ



● INTERNSHIP REPORT

Pick Up

大学では学べない知識や技術  
スキルや考え方を学ぶ

はまの  
浜野  
しゅんや  
峻弥

【期間】  
令和7年9月8日(月)～  
9月12日(金)〈5日間〉  
【実習先】  
大井電気株式会社  
水沢製作所

インターンシップ等就業体験実習報告

私は、2025年9月8日から9月12日の5日間、大井電気株式会社 水沢製作所（以下、大井電気水沢製作所）のインターンシップに参加させていただきました。



大井電気水沢製作所

所は、通信伝送システムや監視・制御装置、ネットワーク関連機器など、社会インフラを支える製品を設計・開発から製造・検査まで一貫して手がけている企業です。私は大学で機械系を専攻しており、その知識を基盤にしながら電気・電子分野への理解を深めたいと考え、一つの製品がどのようなプロセスを経て生産されるのかを学ぶ目的で本インターンシップに応募しました。

実習初日は会社の概要説明と施設案内を受け、その後は日替わりで各部署にて研修を行いました。1日目は機構設計部で、Creo Elements/Direct Modeling

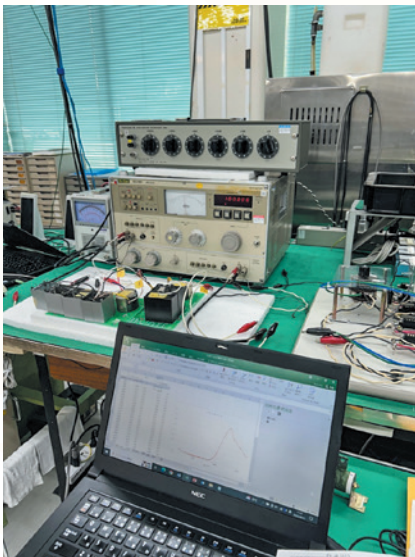
を用いた3Dモデリングを体験しました。大学ではSolidWorksやFusion 360を使用していたため、最初は操作に戸惑いましたが、共通点も多く、徐々に慣れてスムーズに作業を進めることができました。作業を進める中で、ヒストリーベースCADとヒストリーレスCADの違いを実感し、設計変更のしやすさや編集の柔軟性など、ツールごとの思想や利点を理解することができました。今後は目的や状況に応じて最適なツールを選択する意識を持つことの重要性を学びました。

2日目から4日目にかけては、OPTネットワーク開発部、IoT開発部、社会システム技術部での研修を行い、WDM装置やスマートメーター、各種フィラなどの製品に関する試験業務を体験しました。仕様書に基づいて製品が規格を満たしているかを確認する試験では、回路の組み立てやハンダ付け作業も行い、作業の精度が試験結果に直結することを実感しました。知識だけでなく、正確な作業技術の重要性を身をもって学ぶことができました。

最終日の5日目はソフトウェア部での研修を行い、組み込みソフトウェアの開発に取り組んでいる様子を見学しました。Aエアシスタントツール「GitHub

Copy」や、比較的新しいプログラミング言語「Rust」を活用していることを知り、先進的な取り組みに感銘を受けました。また、CLT設定に関する総合試験の一部を体験し、長時間にわたる検証作業を通じて、ソフトウェア開発には最新技術の導入だけでなく、地道で正確な作業の積み重ねが欠かせないことを学びました。

今回のインターンシップでは、各部署で異なる業務を体験することで、大学では触れることのなかった知識や技術に数多く触れることができました。設計、試験、開発といった工程の中で、それぞれに求められるスキルや考え方の違いを理解し、今後の学びやキャリア選択に活かせる貴重な経験となりました。最後になりますが、お忙しい中インターンシップの受け入れとご指導をしてくださった大井電気株式会社水沢製作所の皆様に、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



● INTERNSHIP REPORT

私は千葉県県土整備部道路環境課のインターンシップに参加し、最も印象に残ったのは、机上ではわからない「道路整備の現場」を直接見ることで、その重要性和難しさを実感できたことです。普段何気なく利用している道路は、生活や経済活動の基盤であり、県民の安全・安心を支える重要なインフラですが、その整備や維持管理には膨大な計画と調整、そして現場で働く多くの人々の努力があることを知りました。

私は千葉県県土整備部道路環境課のインターンシップに参加し、最も印象に残ったのは、机上ではわからない「道路整備の現場」を直接見ることで、その重要性和難しさを実感できたことです。普段何気なく利用している道路は、生活や経済活動の基盤であり、県民の安全・安心を支える重要なインフラですが、その整備や維持管理には膨大な計画と調整、そして現場で働く多くの人々の努力があることを知りました。



安全と快適な暮らしを第一に考えるものであり、一つ一つの事業は長期的で成果が目に見えるまでに時間がかかることも少

の施設ではなく、地域社会の暮らしを形づくる空間であるという認識を持つことができました。また、災害に対する道路の役割についても深く学ぶことができました。千葉県は台風や豪雨の被害を受けやすい地域であり、災害時には道路がライフラインを支える最前線となります。道路が寸断されれば救援活動や物流が滞るため、迅速な復旧体制が必要であり、そのためには平常時から計画的な点検や補修を進め、万が一に備えることが極めて重要であると説明されました。現場見学を通して、普段は意識しない「道路の災害対応力」を支える裏方の努力に強い感銘を受けました。

さらに、職員の方々との対話を通じて、行政職員として働くことの意義についても考える機会を得ました。民間企業とは異なり、県庁の業務は利益追求ではなく、県民の安全と快適な暮らしを第一に考えるものであり、一つ一つの事業は長期的で成果が目に見えるまでに時間がかかることも少



実感を得ることができました。今後はこの経験をもとに、学業や進路選択をより前向きに考えていきたいと思えます。

命感が職員の方々の言葉から強く伝わってきました。今回のインターンシップを通して学んだことを振り返ると、道路行政の現場では多様な観点から課題に向き合う姿勢が不可欠であるという点に尽きると思います。安全性、利便性、景観、環境、災害対策といった多くの要素が重なり合う中で、最適解を見出し、それを社会に還元していくことが県庁職員の大きな役割であると理解しました。大学で学んできた知識も、このような複合的な課題に応用できるように磨いていく必要があると強く感じました。インターンシップは単なる職場体験ではなく、自分の進路を真剣に考える大切な機会となり、実際に現場を見て職員の方々と話す中で、県土整備の仕事に携わることには自分の暮らす地域をより良くすることに繋がるという

インターンシップ等就業体験実習報告

鳥部 智佳子

Pick Up  
多様な課題の最適解を見出し  
社会に還元していく

【期間】  
令和7年8月4日(月)～  
8月8日(金)〈5日間〉  
【実習先】  
千葉県庁県土整備部  
道路環境課



なくありません。それでも、完成した道路や整備が地域に根づいたときのやりがいは大きく、「県民の生活を守り、地域社会に貢献する」という使

● INTERNSHIP REPORT



私は主に高水流出解析の演習と河川計画策定プロセスの学習に取り組みました。具体的には、合理式を用いてピウカ川の高水流出解析を実施し、北海道の大雨資料に基づき降雨量変化倍率に対応する流量変化倍率と洪水発生頻度の変化を算出しました。その解析結果を基

株式会社ドーコンの河川環境部での実習期間中、私は主に高水流出解析の演習と河川計画策定プロセスの学習に取り組みました。具体的には、合理式を用いてピウカ川の高水流出解析を実施し、北海道の大雨資料に基づき降雨量変化倍率に対応する流量変化倍率と洪水発生頻度の変化を算出しました。その解析結果を基

インターンシップ等就業体験実習報告

Pick Up

高度な専門知識と徹底した現場主義で  
技術と社会性の両立と基盤の支持

佐藤 瞭

【期間】  
令和7年8月18日(月)~8月22日(金)(5日間)  
令和7年9月16日(月)~9月26日(金)(11日間)

【実習先】  
株式会社ドーコン  
日本工営株式会社



に、河道断面設定や、河床掘削、堤防後退といった具体的な治水対策の検討プロセスを体験的に学びました。また、積雪寒冷地の流域水循環や気候変動と渇水リスクに関する講義を受け、d4PDFなどの予測データを用いた気温上昇の特性の整理を行い、地域特有の環境課題に対する高度な専門技術の必要性を痛感しました。

日本工営の流域水管理部での実習では、河道の付替え設計業務に関する一連の実務を体験させていただきました。特に、現地踏査の重要性を深く学び、河道掘削予定地を対象に、掘削範囲内に存在するマンホールや水路のBOX、排水口といった既存の構造物を、写真と詳細な記録によって特定する作業に注力しました。この地道な作業こそが、後の設計における既存構造物の保全・移設の必要性を判断し、設計の安全性と実現可能性を担保する基盤となることを身をもって知ることができました。

また、実習では最新のICT技術による業務効率化も体験し、Cint3DやRevitを用いた堤防や側溝のCIMモデル作成に取り組み、設計情報の可視化と合意形成支援におけるCIMの重要性を学びました。さらに、360度カメラで撮影したデータとQGIS、3Dvistaを活用し、現場の状況を遠隔で共有できるバーチャルツアー作成を体験し、空間情報の可視化が防災分野や関係者間でのコミュニケーションを円滑化する可能性を実感しました。これらの経験を通じて、設計の質は現場のリアリティの把握に左右されること、そしてICT技術がその現実を正確に伝えるための不可欠なツールであることを理解し、土木技術者としての視野が大きく広がったと感じています。



この度の二社のインターンシップは、建設コンサルタントが高度な専門知識と徹底した現場主義(調査)を統合し、技術と社会性を両立させることで、社会基盤を支えていることを具体的に示してくれました。今後は、大学で培うデータ解析やシミュレーション技術を、両社で学んだ気候変動対策やCIMを活用した効率的な維持管理といった具体的な課題に応用することに注力する所存です。

▼化学コース

本問 祐翔

インターンシップに行くことにより大学で学んでいることがどう使われているか、自分の能力はどこで発揮できるかを理解することが出来るいい機会だと感じました。企業では私たちのような若い人材を求めているため、様々な手段で広告を行っているがそれだけでは親近感がわきにくく興味を持ちにくいと思います。学部で就職するにしても大学院進学するにしても自分のキャリアを見据えたうえで今自分がやるべきことを見つけてという目的意識でインターンシップに行くことよかったです。

▼電気電子通信コース

川戸 隆聖

今回参加したインターンシップではホームページや企業説明であった業務内容を実際に見て体験できる内容でした。そのため予習したほうが業務内容を楽しく感じるかもしれません。また、社員懇談会では質問の時間が長く設けられており、様々な部門の方から話を聞けるため質問内容をなるべく用意したほうがいいです。もし質問内容が思い浮かばなかった場合は、他の人が質問していた内容を別の方に聞いてみるのもいいかもしれません。

▼知能・メディア情報コース

近藤 未悠

インターンシップを通して感じたことは自分がイメージしていた仕事と現場には乖離があるという点です。今回私は○○○の企業にお邪魔したため特に感じやすかったように思います。お客様視点でとらえる仕事と実際にハンズオンで作業をしている人が

抱える仕事内の問題点、解決策というものは根本的に違うことが多く、ある問題の解決を依頼したときにEコマースなどによって効率化することが可能であったり、逆に小規模な組織では簡単に行っていたことが、多種多様な仕事のかかわり方によって複雑化したりするというケースも稀ではないのだと身をもって感じました。

▼知能・メディア情報コース

田村 昂瑛

今回のインターンシップを通じて、教科書だけでは学べない「現場の技術」と「プロの視点」に多く触れることができました。最初はわからないことも多く不安もありましたが、社員の方々が丁寧に教えてくださり、安心して挑戦することができました。インターンシップは、知識を試す場であると同時に、新しい興味や課題意識を見つける絶好の機会です。特にネットワークやクラウドといった分野は、仕組みを理解するほど面白く、奥が深い世界です。ぜひ積極的に質問し、自分の手で設定や検証を行い、体験から学んでほしいと思います。

▼機械科学コース

浜野 峻弥

大井電気水沢製作所でのインターンシップを通して感じたのは、「積極的に学ぶ姿勢」と「柔軟な考え方」の大切さです。普段使い慣れたCADソフトとは異なるツールを扱ったとき、最初は戸惑いでしたが、違いを理解しながら取り組むことで新しい発見につながりました。また、実際の現場では製品の背景や役割を知ることが理解の助けになりました。

わからないことは質問し、興味を持って吸収しようとする姿勢が経験を深める鍵だと実感しました。

▼社会基盤・環境コース

鳥部 智佳子

インターンシップで大切なのは、現場を「見学するだけ」で終わらせず、自分の目で見たことや聞いたことを積極的に質問し、吸収していく姿勢だと思います。職員の方々は私たち学生に対して真摯に向き合ってくくださるので、疑問に思ったことを素直に尋ねれば、必ず学びが深まります。また、実際に道路や施設を見学すると、普段の生活で何気なく使っているインフラがどれほど多くの努力で支えられているかを実感できます。ぜひ、自分の将来を考えるヒントをつかむつもりで臨んでください。

▼社会基盤・環境コース

佐藤 瞭

インターンシップを通じて、建設コンサルタントの仕事は、大学で培う高度な解析技術と現場のリアリティを統合することだと痛感しました。ドローンで学んだ合理式による高水流出解析は、地域の安全を守る計画の根幹であり、日本工場で確認したマンホールや水路BOXといった支障物の現地確認等は、その計画を実現するための実務で大変重要です。CIMやバーチャルツアーといったICT技術は、解析結果と現場を結びつけ、業務を効率化する強力な武器となります。机上の勉強だけでなく、五感で課題を把握し、技術を実務に活かす視点を大切にしてください。この経験は、皆さんが進路を具体的に考える上での大きな糧になるはずです。

# 2025年度インターンシップ等就業体験 受け入れ事業所実績一覧（五十音順）

## ● 岩手県内事業所

事業所名	所在地	期間	実習生数	コース名
岩手県庁 県土整備部	盛岡市	5日間	1	社会基盤・環境
株式会社アイカムス・ラボ	盛岡市	5日間	1	機械科学
株式会社岩手芝浦電子	一戸町	5日間	1	知能・メディア情報
株式会社北日本朝日航洋	盛岡市	5日間	1	社会基盤・環境
株式会社東北システムズサポート	盛岡市	5日間	1	知能・メディア情報
株式会社土木技研	盛岡市	2日間	1	社会基盤・環境
キオクシア岩手株式会社	北上市	5日間	1	知能・メディア情報
シオノギファーマ株式会社 金ヶ崎工場	金ヶ崎町	5日間	1	化学
宮城建設株式会社	久慈市	10日間	1	社会基盤・環境
盛岡市役所 公園みどり課	盛岡市	5日間	1	社会基盤・環境
菱和建設株式会社	盛岡市	5日間	1	社会基盤・環境

## ● 県外事業所

事業所名	所在地	期間	実習生数	コース名
青森県庁 県土整備部 道路課	青森県	5日間	1	社会基盤・環境
アライドテレシスHD株式会社	東京都	5日間	1	知能・メディア情報
アルテリア・ネットワーク株式会社 新橋本社	東京都	5日間	1	知能・メディア情報
いであ株式会社 東北支店	宮城県	5日間	1	社会基盤・環境
大井電気株式会社	神奈川県	5日間	1	機械科学
京都大学 i P S細胞研究所 (CiRA)	京都府	18日間	1	生命
株式会社SBS情報	静岡県	5日間	1	知能・メディア情報
株式会社青森芝浦電子	青森県	5日間	1	知能・メディア情報
株式会社インターネットイニシアティブ	東京都	5日間	1	知能・メディア情報
株式会社鴻池組 東北支店	宮城県	5日間	1	社会基盤・環境
株式会社ドーコン本社	北海道	5日間	1	社会基盤・環境
株式会社日水コン	東京都	5日間	1	社会基盤・環境
株式会社フジヤマ	静岡県	5日間	1	社会基盤・環境
国土交通省東北地方整備局 八戸港湾・空港整備事務所	青森県	5日間	1	社会基盤・環境
仙台市役所 都市整備局	宮城県	5日間	2	社会基盤・環境
千葉県庁道路環境課	千葉県	5日間	1	社会基盤・環境
東北電力株式会社	宮城県	5日間	2	電気電子通信
トヨタシステムズ名古屋本社	愛知県	10日間	1	知能・メディア情報
西松建設株式会社 北日本支社	宮城県	5日間	1	社会基盤・環境
日本工営株式会社	宮城県	8日間	1	社会基盤・環境
福島県庁いわき建設事務所	福島県	10日間	1	社会基盤・環境
宮城県庁 仙台土木事務所	宮城県	5日間	1	社会基盤・環境
宮城県庁 土木部 北部土木事務所	宮城県	5日間	1	社会基盤・環境

事業所数 計 34 事業所 実習生数 延べ 25 名  
うち 9 名が 2 事業所、1 名が 3 事業所で実施





〒020-8550  
盛岡市上田三丁目18-34  
岩手大学学務部学務課理工学部担当

TEL 019-621-6307  
FAX 019-621-6065  
E-mail grikei@iwate-u.ac.jp